

平成22年度 教育学部授業日程計画

前 期								後 期							
曜日	日	月	火	水	木	金	土	曜日	日	月	火	水	木	金	土
4月					1	2	3	10月						1	2
	4	5	6	7	8	9	10		3	4	5	6	7	8	9
	11	12	13	14	15	16	17		10	11	12	13	14	15	16
	18	19	20	21	22	23	24		17	18	19	20	21	22	23
	25	26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30
									31						
1日～7日 春季休業 1日 オリエンテーション(新入生) 7日 オリエンテーション(在学生) 8日 入学式、オリエンテーション(新入生) 9日 授業開始 29日～5月5日 特別休業 29日 昭和の日 *30日は休業日であるが授業を行う。								1日 授業開始 11日 体育の日 22日 開学記念日 *22日は休業日であるが授業を行う。							
5月							1	11月		1	2	3	4	5	6
	2	3	4	5	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13
	9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20
	16	17	18	19	20	21	22		21	22	23	24	25	26	27
	23	24	25	26	27	28	29		28	29	30				
	30	31													
3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日								3日 文化の日 【20日～22日 大学祭】 19日 午前 臨時休講 午後 臨時休業(大学祭準備) 22日 臨時休業 23日 勤労感謝の日(大学祭片付け)							
6月			1	2	3	4	5	12月				1	2	3	4
	6	7	8	9	10	11	12		5	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18
	20	21	22	23	24	25	26		19	20	21	22	23	24	25
	27	28	29	30					26	27	28	29	30	31	
								23日 天皇誕生日 24日 23年9月卒業に係る卒業研究題目・概要届提出締切 25日～1月7日 冬季休業 25日～28日 集中講義ゾーン⑥							
7月					1	2	3	1月						1	
	4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8
	11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14	15
	18	19	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22
	25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
12日 23年3月卒業に係る卒業研究題目・概要届提出締切 19日 海の日 *23日は月曜日の授業を行う。 30日～8月5日 前期末試験								10日 成人の日 *11日は月曜日の授業を行う。 14日 大学入試センター試験実施に伴う臨時休講 15日・16日 大学入試センター試験 31日 23年3月卒業に係る卒業研究提出締切							
8月	1	2	3	4	5	6	7	2月			1	2	3	4	5
	8	9	10	11	12	13	14		6	7	8	9	10	11	12
	15	16	17	18	19	20	21		13	14	15	16	17	18	19
	22	23	24	25	26	27	28		20	21	22	23	24	25	26
	29	30	31						27	28					
1日～9月30日 夏季休業 2日 22年9月卒業に係る卒業研究提出締切 6日・7日 オープンキャンパス 9日～11日 補講日								4日・9日～15日 後期末試験 11日 建国記念の日 16日・17日 補講日 16日～3月31日 臨時休講							
9月				1	2	3	4	3月			1	2	3	4	5
	5	6	7	8	9	10	11		6	7	8	9	10	11	12
	12	13	14	15	16	17	18		13	14	15	16	17	18	19
	19	20	21	22	23	24	25		20	21	22	23	24	25	26
	26	27	28	29	30				27	28	29	30	31		
6日～9日 集中講義ゾーン① 10日～13日 集中講義ゾーン② 14日～17日 集中講義ゾーン③ 20日 敬老の日 23日 秋分の日 21日～24日 集中講義ゾーン④ 25日～28日 集中講義ゾーン⑤								21日 春分の日 25日 卒業式							
前期計 16 16 16 16 16 授 業 週 数 (含 試 験)								後期計 16 16 16 16 16 授 業 週 数 (含 試 験)							

↑ 7月23日を含む

↑ 1月11日を含む

※夏季休業・冬季休業期間中においても授業・試験を行うことがあります。

◎期区分：1期4月1日～6月5日 2期6月6日～9月30日 3期10月1日～11月30日 4期12月1日～3月31日

Ⅲ 履修等について

1 一般的注意

- (1) この「学生の手引」に示すものは、主に専門科目に関する事柄です。学部全体学生に共通なものは、『Ⅲ 履修等について』、『Ⅳ 教育実習・特別支援教育実習・養護実習・保育実習について』に、各課程のカリキュラムは、『Ⅶ 教育学部各課程カリキュラム』に記載してあります。
- (2) 卒業要件は、各課程に周到的配慮のもとに定められていますが、最低の基準を示したものであり、皆さんはそれを超えるように履修計画を立ててください。
- (3) 諸届及び提出物は、指定された期日・時刻までに提出しなければなりません。ただし、「学生の手引」で指定された期日が休日の場合は、翌日とします。
- (4) 履修に関しては、「学生の手引」及び「シラバス」を熟読し、各自の責任において誤りのないよう留意してください。

2 授業の方法と単位の計算方法

(授業の方法)

- (1) 授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより又はこれらの併用により行われます。

(単位の計算方法)

- (2) 授業科目の1単位当たりの学修は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数が定められています。

授業の方法	授業による学修時間	授業時間外に必要な学修時間
講義、演習	15時間又は30時間	30時間又は15時間
実験、実習、実技	30～45時間	15時間～0時間

3 履修科目の決定

(履修科目の登録)

- (1) 学期ごとに履修しようとする授業科目を決定し、学期の始めに掲示により指定された期間に学内のパソコンを利用してWebにより履修登録を行ってください。また、履修登録を行った翌日以降に、必ず登録チェックを学内のパソコンで行い、エラーがないかどうか確認してください。

履修登録が完了していない授業科目の履修及び単位修得は認められませんので注意してください。

(集中講義及び臨時に開講される授業科目の履修)

- (2) 集中講義及び学期の中途から臨時に開講される授業科目の履修登録期間についても、掲示により指示します。

(教養教育科目に関する履修登録単位数の制限)

- (3) 教養教育科目については、1年間に履修登録できる単位数は**31単位以内**となりますので、注意してください。なお、専門科目に関しては、特に上制限は設けていませんが、授業履修に支障のない範囲で履修登録を行うようにしてください。

(繰り返し履修)

- (4) 授業科目の繰り返し履修については以下のとおりです。

① 専門科目の同一授業科目は原則として繰り返し履修することはできません。繰り返し履修することができるものは、時間割にその旨記載されてあるものに限り、次のとおり取り扱います。

ア 繰り返し履修した授業科目の2回目以降の単位は免許取得に使えません。

イ 卒業要件単位数としては、修得した単位の2回分までを上限として算入できます。

- ② 教養教育科目については同一名の授業科目を重複して履修することはできません。(単位未修得となった場合の再履修は除く。)ただし、スポーツ実習は同一名の授業科目でも履修できるほか、外国語科目の中にも同一名の授業科目であっても履修できるものがあります。詳細は「教養教育科目履修の手引」を参照してください。

(履修者の制限)

- (5) 特定の授業科目について履修希望者が多く、設備の関係で全員が履修できない場合は、一部の者に履修の変更又は延期を求めることがあります。その場合の履修者の決定は、当該科目のコース生、高年次の学生を優先的に取り扱います。その他必要に応じて担当教員が指示します。

(クラス編成・学年指定)

- (6) 科目によっては、クラス編成により学年、学期及び時限が指定される場合があります。この場合は、それぞれ指定された学年、学期及び時限に履修しなければなりません。

4 定期試験等

- (1) 試験は、原則として学期末(8週間で完結する講義にあつては4半期末)に各授業担当教員の指示する日及び時限内で行います。
- (2) 病気その他やむを得ない事故等のために受験できない者に対しては、追試験を実施することがあります。このような事態が発生した場合は、すみやかに授業担当教員に申し出て、指示に従ってください。受験延期を許可された者に対しては、適当な時期に追試験を行います。
- (3) レポート等は、授業担当教員の指示に従い、指定された期限までに提出しなければなりません。

5 受験心得

専門科目の定期試験等の受験に関する注意事項は、下記のとおりです。各事項を充分熟読の上受験してください。

- (1) 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- (2) 監督者が指定した座席において受験すること。
- (3) 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- (4) 受験中、机の上に置くことができるものは、学生証、筆記用具(筆箱等を除く。)及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。携帯電話・PHS等は、必ず電源を切ってカバン等に入れること。
- (5) 解答用紙には、所属学部等名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- (6) 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- (7) 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- (8) 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退室すると無効になる場合がある。
- (9) 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。
なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。

6 単位の認定及び成績の評価

- (1) 単位の認定は、授業時間の3分の2以上出席した者について、試験・レポート及び平素の成績等により、授業担当教員が行います。
- (2) 成績の評価は次のとおりです。
A+ (100~90点), A (89~80点), B (79~70点), C (69~60点), 修了及び認定を合格(単

位修得)とし、F(59点以下)を不合格(単位未修得)とします。

7 GPA制度

(1) GPA制度とは

- ① これまでの成績評価は、優・良・可・不可の4段階でしたが、これをA+・A・B・C・Fの5段階評価とします。

これまでの成績評価			GPA制度による成績評価			
成績(評点)	評語		成績(評点)	評語	GP	
80-100点	優	合格	90-100点	A+	4	合格
70-79点	良		80-89点	A	3	
60-69点	可		70-79点	B	2	
0-59点	不可	不合格	60-69点	C	1	不合格
			0-59点	F	0	

- ② GPA制度とは、履修登録した科目毎の5段階評価を4から0までの点数(GP: Grade Point)に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点です。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

- ③ 例えば、次の架空の成績をもとにGPAを考えてみると以下ようになります(実際には、皆さんは一学期間にもっと多くの科目を履修します)。

科目名	単位数(a)	評点	評語	GP(b)	a × b
〇〇学概論	2	95	A+	4	8
〇〇学要説	2	85	A	3	6
□□学演習Ⅰ	2	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	2	70	B	2	4
△△基礎実験	1	90	A+	4	4
計	9				22

上記の成績の学生の場合

分子・・・ (履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目のGP)の総和 = 22

分母・・・ 履修登録した授業科目の単位数の合計 = 9

$$\text{GPA} = 22 \div 9 = 2.44$$

(2) GPAの対象とならない科目

- ① 評点を示さず、認定または修了によって単位を修得した科目
- ② 岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- ③ 履修登録取消の手続きをした科目(以下(4)を参照)

(3) GPA制度の目的

- ① 成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザー等の教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ② GPAを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- ③ 学生に対して修得単位数だけではなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

(4) 履修登録取消制度とは

履修登録取消制度とは、一旦履修登録した科目(履修確定された科目のことで、Webの履修登録画面上に「確」マークが付いたもの)を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たものの、授業の内容が自分が勉強したいものと違っていた、授業に対する知識が不足していることに気付

いた、履修科目数を減らしたい等といった理由から履修を取り消すことができる制度です。

以下の履修登録取消期間内に手続きをせず、自ら履修を放棄した場合は、F評価（GP＝0）となり、後々までGPAの値に大きな影響を及ぼしますので、注意してください。

※この制度は、履修確定後に行うものですので、履修登録期間中（エラー等の確認期間を含む）に行う削除とは異なります。

① 履修登録取消の期間

○前期：5月の第4週目（月曜日～金曜日）

○後期：11月の第3週目または第4週目（月曜日～金曜日）

○夏季休業期間等に行われる集中講義については、当該科目の履修確定日の翌日から当該科目の授業開始日の前日まで

② 履修登録取消の手続き場所

教育学部教務学生係で、所定の様式（GPAに係る履修登録科目の取消願）により願い出てください。

8 他の大学における修得単位の認定、入学前の既修得単位の認定、外部検定試験等による単位の認定

他の大学において修得した単位や入学前に大学において修得した単位、外部検定試験等により一定の基準を満たした場合は、本学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を認定することがありますので教務学生係へ申し出てください。

9 成績の登録及び確認

(1) 履修した授業科目の成績は、すべて学籍簿に登録されます。

(2) 成績確認方法については、次の学期の始まる前（卒業年次後期の場合は学期末）に、別途掲示によりお知らせします。

10 気象警報・インフルエンザに罹患した場合などの授業等の取扱い

気象警報やインフルエンザに罹患した場合など通学が困難となる事由が発生した場合の授業（定期試験を含む。以下同じ。）等については、「休講」、または所定の手続きを行うことにより「公欠」の取扱いとなります。

休講となった授業については、後日、原則として補講を行うものとします。また、公欠の場合は、原則として補講は行わず、授業担当教員が当該授業に相当する学習を課すものとします。詳細は、授業担当教員へ確認してください。

なお、公欠扱いとすることができる回数は、当該授業科目の授業回数の4分の1を超えることができません。

「本学の所在地に気象警報（暴風警報、暴風雪警報及び大雪警報に限る。）が発表された場合」

本学のキャンパスを含む地域に、暴風警報、暴風雪警報又は大雪警報（三朝キャンパスは大雪警報を除く。）が発表された場合の昼間に開講する授業は、次のとおり取り扱います。

- ・気象警報が、午前6時から午前8時40分（授業開始時刻）までに出ている場合は、全ての授業を休講とします。なお、気象警報が、午前8時40分までに解除されても、全ての授業は休講とします。
- ・授業開始後に気象警報が出された場合は、次の時限以降の全ての授業を休講とします。

① 対象となる気象警報が発表されている地域

- ・岡山市内にある本学の「津島キャンパス」、「鹿田キャンパス」、「その他キャンパス」及び玉野市並びに瀬戸内市にある本学のキャンパスで行われる授業については、岡山地方気象台から発表の「岡山地域」又は「岡山県南部地域」或いは「岡山県全域」
- ・本学の倉敷キャンパスで行われる授業については、岡山地方気象台から発表の「倉敷地域」

又は「岡山県南部地域」或いは「岡山県全域」

- ・ 本学の三朝キャンパスで行われる授業については、鳥取地方気象台から発表の三朝町を含む地域
- ・ 上記以外の本学のキャンパスで行われる授業については、当該キャンパスの所在地の管轄気象台から発表のその所在地を含む地域

注) 岡山地方気象台から気象警報が発表される場合の発表地域区分は、「岡山県全域」、「岡山県南部地域」、「岡山県北部地域」に区分され、さらに細分した地域区分として、南部は5地域（「岡山地域」、「東備地域」、「倉敷地域」、「井笠地域」、「高梁地域」）に、北部は4地域（「新見地域」、「真庭地域」、「津山地域」、「勝英地域」）に区分されています。

その地域区分で、岡山地域とは、岡山市、瀬戸内市、玉野市、加賀郡（吉備中央町）で、倉敷地域とは、倉敷市、総社市、都窪郡（早島町）です。

② 休講の周知方法等

- ・ 休講の周知は、Gmail*、学内掲示、本学のホームページ及びマスメディア等を通じて行います。なお、授業開始後に気象警報が出された場合は、学内掲示等により周知するとともに、授業中のものにあつては、授業担当教員を通じて周知します。
- ・ 休講決定後、直ちに下校することが危険な場合には、学内の施設で待機しても構いません。

③ 課外活動の取扱い

- ・ 休講措置がとられた場合、課外活動は全て禁止とします。

*Gmailとは、学生用メールのことで、緊急事項や学務に関する重要事項などについて本学から発信する情報伝達手段の一つとなっています。学生の皆さんは、携帯電話への転送設定を行っていただくことにより、身近に情報を受信することができます。

「休講措置の対象とならない気象警報が発表されて通学が困難な場合及び通学に利用する交通機関が運行休止になった場合」

休講措置の対象とならない気象警報（注1）や交通機関の運行休止（注2）により通学が困難な場合は、届出により、出席できなかった授業を公欠扱いとします。

注1 休講措置の対象とならない気象警報とは…

上記(1)の対象となる気象警報以外の気象警報、又は本学のキャンパス地域には気象警報が出ていないが、学生が住んでいる地域に気象警報が出て通学が困難な場合です。

注2 交通機関の運行休止とは…

気象現象又は地震により、鉄道や道路が遮断されて交通機関が運行休止になり通学が困難な場合です。（それ以外の理由による公共交通機関の運行休止を含みます。）

① 公欠の届出

通学可能となった後、「授業公欠届（気象警報・交通機関の運休）」（所定様式）を交通機関の運行休止を明らかにする書類と共に教務学生係へ提出してください。届出を受理した場合は、教務学生係から授業担当教員へ連絡します。

「親族が死亡した場合」

葬儀、服喪その他の親族の死亡に伴い必要と認められる行事のため出席できなかった授業については、届出により、公欠扱いとします。

① 公欠となる親族の範囲

公欠となる親族の範囲は、配偶者、1親等（父母、子）及び2親等（祖父母、兄弟姉妹、孫）です。

② 公欠となる期間

公欠は、次に掲げる期間とします。なお、葬儀のため遠隔地に赴く場合は、往復に要する日数を加えた日数とします。

- ・配偶者及び1親等の場合は、死亡した日から起算して連続7日（休日を含む。）の範囲内の期間
- ・2親等の場合は、死亡した日から起算して連続3日（休日を含む。）の範囲内の期間

③ 公欠の届出

葬儀等の行事を終えた後、「授業公欠届（忌引き）」（所定様式）を会葬礼状等と共に教務学生係へ提出してください。届出を受理した場合は、教務学生係から授業担当教員へ連絡します。

「感染症に罹患した場合」

次表の感染症に罹患した場合は、医師の診断に基づき出席停止とし、出席停止となった期間に出席できなかった授業については、届出により、公欠扱いとします。

種 類	病 名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、鳥インフルエンザ（病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1であるものに限る。）、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症
第2種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く。）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核

① 出席停止の期間

出席停止の期間は、次表の期間を基準に、医師に治癒したと診断されるまでとし、病名及び罹患期間が記載された医師の発行する診断書（治癒証明書）に基づき措置します。

種 類	出 席 停 止 の 期 間
第1種	治癒するまで。
第2種	・インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）にあつては、解熱した後2日を経過するまで。 ・百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで。 ・麻疹にあつては、解熱した後3日を経過するまで。 ・流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺の腫脹が消失するまで。 ・風疹にあつては、発疹が消失するまで。 ・水痘にあつては、すべての発疹が痂皮化するまで。 ・咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後2日を経過するまで。 ・結核にあつては、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。 ※病状により医師において感染のおそれがないと認めたときは、上記の限りではありません。

② 公欠の届出

通学可能となった後、「授業公欠届（感染症）」（所定様式）を医師の診断書（治癒証明書（コピー可））と共に教務学生係へ提出してください。届出を受理した場合は、教務学生係から授業担当教員へ連絡します。

「感染の拡大を防止するために本学の一部又は全部を休業する場合」

本学の危機管理対策に基づき、感染症罹患者の発生に伴い、感染症の感染拡大を防止する目的で休業措置をとります。

① 休業となった期間の授業の取扱い

休業となった期間の授業の取扱いは、学長が決定します。

② 休業の周知方法

休業の周知は、Gmail、学内掲示、本学のホームページ及びマスメディア等を通じて行います。

11 卒業研究

(実施の主旨)

- (1) 本学部において「卒業研究」を課す目的は、それぞれの専門分野における研究や実習に関し、科学的な方法を身に付け、将来の研究や実践の基礎を築くためです。

(資格)

- (2) 原則として、翌年3月に卒業見込みの学生であり、指導教員の承認を得た者

(種類)

- (3) 論文、制作、演奏、作曲等

(単位)

- (4) 卒業研究の審査を受けて合格した場合は、6単位が与えられます。

「卒業研究」の単位を修得しなければ、卒業ができません。

(指導教員)

- (5) 卒業研究は、原則として毎週時間を定め、指導教員の指導の下に行わなければなりません。指導教員の指示により、他の教員の助言を受けることができます。

(題目の定め方)

- (6) 各学生は、指導教員の指導により卒業研究の題目を決定してください。

決定した題目は、卒業研究題目・概要届により卒業年度の7月10日までに指導教員に届け出なければなりません。

また、前期末に卒業する見込の者は、その前年の12月24日までに卒業研究題目・概要届を指導教員に届け出なければなりません。

上記の手続きをしない者は、「卒業研究」の履修が認められません。

(提出締切)

- (7) 卒業研究は、卒業の年の1月31日までに、教務学生係へ必ず提出しなければなりません。なお、制作、演奏については、指導教員の制作受領書もしくは演奏確認書を提出することとし、期日は上記に準じます。

また、前期末に卒業する見込の者は、その年の7月31日までに、教務学生係に必ず提出しなければなりません。

12 教育職員免許状

所属する課程・コース・専修の卒業に必要な単位を修得することにより、次の教員免許状を取得することができます。

・学校教育教員養成課程

小学校教育コース 小学校教諭一種

中学校教育コース 所属する専修に応じた教科の中学校教諭一種

特別支援教育コース 小学校教諭一種又は中学校教諭一種（基礎免許の教科）、及び特別支援学校教諭一種（知的障害者、肢体不自由者、病弱者に関する教育の領域）
幼稚園教諭一種

幼児教育コース 養護教諭一種

・養護教諭養成課程

※小学校及び中学校教諭の普通免許状取得には、介護等体験を必要とします。詳細は、『Ⅳ 教育実習・特別支援教育実習・養護実習・保育実習について』の介護等体験の項を参照してください。

※他の免許状を取得する場合は、「参考1 教育職員免許状取得に要する単位数について」及び別冊の「教員免許取得ガイド」を参照してください。

VII 教育学部各課程カリキュラム

学校教育教員養成課程 [小学校教育コース]

学校教育教員養成課程 小学校教育コース 卒業要件単位数							
教養教育科目	別表第8 卒業認定に必要な教養教育科目単位数の表により単位を修得すること。					31単位	
専門科目	学部科目	教職に関する科目	教職の意義等に関する科目			2単位	104単位
			教育の基礎理論に関する科目	教育の理念, 歴史及び思想 心身の発達及び学習の過程 社会的, 制度的又は経営的事項	4単位 6単位 4単位	14単位	
			教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 道徳の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術	2単位 2単位 2単位 4単位	10単位	
			生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目			4単位	
			教職実践演習			2単位	
			教職に関する科目に準ずる科目			4単位	
	コース科目	教職に関する科目	各教科の指導法			18単位	
			教育実習			7単位	
		教科に関する科目			18単位		
	専修科目					12単位	
	自由選択科目					7単位	
	卒業研究					6単位	
	卒業要件単位数合計						

I 学部科目

1 教職に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教職の意義等に関する科目		必修	教職論	2	1	2		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	必修	学校と教育の歴史	2	1	2	4	修得することが望ましい
		選択必修	教育哲学	2	2～	2		
			日本教育史	2	2～			
			西洋教育史	2	2～			
	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	必修	学校教育心理学	2	1	2	6	
			発達障害教育概論	2	3	2		
		選択必修	発達心理学A	2	1～	2		
			発達心理学B	2	1～			
			発達心理学C	2	1～			
	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	必修	教育の制度と社会	2	1	2	4	
		選択必修	教育社会学	2	2～	2		
			教育法制論	2	2～			
			生涯学習社会論	2	2～			
			教育経営学	2	2～			
			学校教育実践学	2	2～			
			教職とマネジメント	2	3～			
		選択	人権・同和教育	2	1～			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	必修	カリキュラム論	2	2	2		
	道徳の指導法	必修	道徳教育論	2	3	2		
	特別活動の指導法	必修	特別活動論	2	2	2		
	教育の方法及び技術	必修	教育の方法と技術	2	2	2	4	
		選択必修	現代教育方法学	2	2～	2		
			学習意欲向上の原理と方法	2	2～			
			教育評価・測定	2	2～			
情報メディアの授業活用	2	3～						
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目		必修	生徒指導論Ⅰ（教育相談，進路指導を含む）	2	2	2	4	
		選択必修	教育相談論A	2	3～	2		
			進路指導論	2	3～			
			生徒指導論ⅡA	2	3～			
教職実践演習		必修	教職実践演習（小学校）	2	4	2		

修得することが望ましい

2 教職に関する科目に準ずる科目

区 分 I	区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考	
教職に関する科目 に準ずる科目	現代的課題	必修	外国語活動の指導法	2	2	2	幼・中・高免不可	
		選択 必修	E S D の理論と実践	2	2～	2		幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可
			こどもと異文化理解	2	2～			
			小学校におけるものづくり・情報教育	2	2～			
			小学校における木材加工教育	2	2～			
			小学校におけるエネルギー・環境教育	2	2～			
			小学校における情報モラル	2	2～			
			動くおもちゃのしくみと科学	2	2～			
			社会福祉	2	2～			
			児童福祉	2	2～			
			青少年と情報社会	2	2～			
			養護原理	2	3～			
			家族援助論	2	3～			
	体験的学習	フィールド・チャレンジA	1	1～	2	4	幼免不可 幼・中・高免不可 幼免不可	
		フィールド・チャレンジB	1	1～				
		野外活動の理論と実際A（山の体験学習）	2	2～				
		野外活動の理論と実際B（海の体験学習）	2	1～				
		史跡実地踏査	1	2～				
	教科横断的思考・ 表現法	算数読解論	2	1～	2	4	幼・中・高免不可 幼免不可	
		くらしと環境	2	1～				
		論理と表現	2	2～				
		学校経営と学校図書館	2	4				
		学校図書館メディアの構成	2	4				
		学習指導と学校図書館	2	4				
		読書と人間形成	2	4				
		情報メディアの活用	2	4				

Ⅱ コース科目

1 教職に関する科目（各教科の指導法）

区 分Ⅰ	区 分Ⅱ	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
各教科の指導法	国語(書写を含む)	必修	初等国語科授業研究 (書写を含む)	2	2	2	18
	社会	必修	初等社会科授業研究	2	2	2	
	算数	選択 必修	算数科授業研究 A	2	2～	2	
			算数科授業研究 B	2	2～		
	理科	必修	初等理科授業研究 A	1	3	1	
			初等理科授業研究 B	1	3	1	
	生活	選択 必修	生活科授業研究 A	2	2～	2	
			生活科授業研究 B	2	2～		
	音楽	必修	初等音楽科授業研究	2	2	2	
	図画工作	必修	図画工作科授業研究	2	2	2	
体育	必修	初等体育科授業研究	2	2	2		
家庭	選択 必修	初等家庭科授業研究 A	2	2～	2		
		初等家庭科授業研究 B	2	2～			

2 教職に関する科目（教育実習）

区 分 I	区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件	備 考
教育実習		必修	教育実習Ⅰ(観察・参加実習)	1	1・2	1	7
			教育実習Ⅱ(小学校教育実習基礎研究)	1	3	1	
			教育実習Ⅲ(附属小学校実習)	4	3	4	
			教職実践インターンシップ	1	4	1	

3 教科に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
国語		必修	初等国語科内容研究Ⅰ（書写を含む）	2	1	2	1 8
社会		必修	初等社会科内容研究	2	2	2	
算数		必修	算数科内容研究	2	2	2	
理科		必修	初等理科内容研究	2	2	2	
生活		選択 必修	生活科内容研究A	2	2～	2	
			生活科内容研究B	2	2～		
音楽		必修	初等音楽科内容研究	2	2	2	
図画工作		必修	図画工作科内容研究	2	2	2	
体育		必修	初等体育科内容研究	2	2	2	
家庭		必修	初等家庭科内容研究	2	2	2	

Ⅲ 専修科目

「教職に関する科目」、「教科に関する科目」及び「教職に関する科目に準ずる科目」として修得した授業科目については、「専修科目」の卒業要件単位として二重に用いることはできない。
また、区分が空欄の授業科目は、免許取得に使えないものである。

専 修 名	区 分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考	
教育学専修	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	選択必修	教育哲学	2	3～	6	1 2		
			日本教育史	2	3～				
			西洋教育史	2	3～				
	教育の方法及び技術		現代教育方法学	2	2～				
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		教育社会学	2	2～				
			教育法制論	2	2～				
			生涯学習社会論	2	2～				
			教育経営学	2	2～				
			国際理解教育概説	2	2～				
				必修	教育研究法Ⅰ				2
	教育研究法Ⅱ	2			2	2			
	選択必修	教育哲学演習		2	3～	2			
		日本教育史演習		2	3～				
		西洋教育史演習		2	3～				
		教育社会学演習		2	3～				
		社会教育学演習		2	3～				
		教育行政学演習		2	3～				
		国際理解教育演習		2	3～				
		教育方法学演習		2	3～				
		学校経営学演習		2	3～				
		生涯教育計画論		2	3～				
	教育心理学専修	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	選択必修	学習心理学	2	2～			2
発達心理学特講				2	2～				
教育の方法及び技術				教育評価・測定	2	2～			
人格心理学		2		2～					
教育臨床心理学		2		2～					
集団心理学		2		2～					
		必修		教育心理学基礎演習	2	1	2		
			教育統計学Ⅰ	2	1	2			
			教育心理学実験	2	2	2			
		選択必修	教育統計学Ⅱ	2	1～	4			
			発達心理学演習	2	2～				
			人格心理学演習	2	2～				
教育評価・測定演習			2	2～					
集団心理学演習	2		2～						
教育臨床心理学演習	2		2～						
学習心理学演習	2		3～						
教育心理学特殊実験A	2		3～						
教育心理学特殊実験B	2		3～						
教育心理学特殊実験C	2		3～						
教育心理学特殊実験D	2	3～							
教育心理学特殊実験E	2	3～							
教育心理学特殊実験F	2	3～							

専 修 名	区 分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考
国語教育専修	各教科の指導法	選択必修	初等国語科指導法開発 A	2	3 ～	2	1 2	
			初等国語科指導法開発 B	2	3 ～			
			初等国語科実地研究	2	3 ～			
	教科に関する科目 ・ 国語	選択必修	初等国語科内容研究Ⅱ（言語）	2	2 ～	2		
			初等国語科内容研究Ⅱ（文学）	2	2 ～			
			初等国語科内容研究Ⅱ（古典）	2	2 ～			
			初等国語科内容開発（言語）	2	3 ～			
			初等国語科内容開発（文学）	2	3 ～			
		中学校国語教育専修科目						
社会科教育専修	各教科の指導法	必修	初等社会科指導法開発	2	3	2	1 2	
	教科に関する科目 ・ 社会	選択必修	初等社会科内容開発 A	2	3 ～	2		
			初等社会科内容開発 B	2	3 ～			
					中学校社会科教育専修科目			
数学教育専修	各教科の指導法	必修	算数科指導法開発	2	3	2	1 2	
	教科に関する科目 ・ 算数	選択必修	数学基礎（代数）	2	1 ～	2		
			数学基礎（幾何）	2	1 ～			
			数学基礎（解析）	2	1 ～			
			数学基礎（確率）	2	1 ～			
			数学基礎（統計）	2	1 ～			
					中学校数学教育専修科目			
理科教育専修	各教科の指導法	必修	初等理科指導法開発	2	3	2	1 2	
	教科に関する科目 ・ 理科	選択必修	理科基礎（物理学）	1	1 ～	2		
			理科基礎（化学）	1	1 ～			
			理科基礎（生物学）	1	1 ～			
			理科基礎（地学）	1	1 ～			
					中学校理科教育専修科目			
音楽教育専修	各教科の指導法	必修	初等音楽科指導法開発	2	3	2	1 2	
	教科に関する科目 ・ 音楽	選択必修	音楽の表現と理解	2	1 ～	2		
			音楽鑑賞	2	1 ～			
					中学校音楽教育専修科目			
美術教育専修	各教科の指導法	必修	図画工作科指導法開発	2	3	2	1 2	
	教科に関する科目 ・ 図画工作	選択必修	造形表現（平面）	2	2 ～	2		
			造形表現（立体）	2	2 ～			
			工作演習（計画と実践）	2	2 ～			
					中学校美術教育専修科目			
保健体育専修	各教科の指導法	必修	初等体育科指導法開発	2	3	2	1 2	
	教科に関する科目 ・ 体育	選択必修	体育・スポーツの楽しさ	2	1 ～	2		
			初等体育科内容開発 A	1	3 ～			
			初等体育科内容開発 B	1	3 ～			
					中学校保健体育専修科目			

(小)

専修名	区分	選必	授業科目名	単位	履修年次	卒業要件	備考
家政教育専修	各教科の指導法	選択必修	初等家庭科指導法開発A	2	3～	2 1 2	
			初等家庭科指導法開発B	2	3～		
	教科に関する科目・家庭	必修	家族とくらし	2	1		
			中学校家政教育専修科目				
英語教育専修	教職に準ずる科目	必修	こどもと異文化理解	2	2	2 1 2	
		選択必修	中学校英語教育専修科目				
ものづくり・情報教育専修	教職に準ずる科目	必修	小学校におけるものづくり・情報教育	2	2	2 1 2	
		選択必修	小学校における木材加工教育	2	2～		
			小学校におけるエネルギー・環境教育	2	2～		
			小学校における情報モラル	2	2～		
			動くおもちゃのしくみと科学	2	2～		
			中学校技術教育専修科目				
特別支援教育専修		必修	特別支援教育概論	2	1	2 2 8 1 2	特別支援教育に関する科目
			発達障害者心理概論	2	2		
		選択必修	障害者教育史概論	2	2～		
			知的障害者心理学概論	2	2～		
			知的障害者生理・病理学概論	2	1～		
			肢体不自由者心理・生理・病理学概論	2	2～		
			病弱者心理・生理・病理学概論	2	2～		
			知的障害者教育課程・方法論	2	3～		
			肢体不自由者教育課程・方法論	2	3～		
			病弱者教育課程・方法論	2	2～		
			知的障害者指導論	2	2～		
			視覚障害者教育概論	1	2～		
			聴覚障害者教育概論	1	2～		
			重度・重複障害者教育概論	1	2～		

Ⅳ 自由選択科目

区分Ⅰ	区分Ⅱ	選必	授業科目名	単位	履修年次	卒業要件	備考
			※自由選択科目には、選択科目の単位の他、卒業要件単位を超えて修得した選択必修科目の単位、及び他学部開講の専門教育科目の修得単位をあてることができる。(教養教育科目は、自由選択科目にあてることができない。)			7	

Ⅴ 卒業研究

科目区分	選必	授業科目名	単位	履修年次	卒業要件	備考
卒業研究	必修		6	4	6	※卒業研究の履修に当たっては、18頁を参照のこと。

学校教育教員養成課程
[中学校教育コース]

学校教育教員養成課程 中学校教育コース 卒業要件単位数							
教養教育科目	別表第8 卒業認定に必要な教養教育科目単位数の表により単位を修得すること。					31単位	
専門科目	学部科目	教職に関する科目	教職の意義等に関する科目			2単位	100単位
			教育の基礎理論に関する科目	教育の理念, 歴史及び思想 心身の発達及び学習の過程 社会的, 制度的又は経営的事項	4単位 6単位 4単位	14単位	
			教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 道徳の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術	2単位 2単位 2単位 4単位	10単位	
			生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目			4単位	
			教職実践演習			2単位	
			教職に関する科目に準ずる科目			2単位	
	コース科目	教職に関する科目	教育実習			7単位	
	専修科目		各教科の指導法		6単位	46単位	
			教科に関する科目		30単位		
	自由選択科目					6単位	
	卒業研究					6単位	
	卒業要件単位数合計						131単位

(注) 中学校教諭の普通免許状を取得するには、「介護等体験」が必要である。

I 学部科目

1 教職に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教職の意義等に関する科目		必修	教職論	2	1	2		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	必修	学校と教育の歴史	2	1	2	4	
		選択 必修	教育哲学	2	2～	2		
			日本教育史	2	2～			
			西洋教育史	2	2～			
	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	必修	学校教育心理学	2	1	2	6	
			発達障害教育概論	2	3	2		
		選択 必修	発達心理学A	2	1～	2		
			発達心理学B	2	1～			
			発達心理学C	2	1～			
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	必修	教育の制度と社会			
	選択 必修	教育社会学		2	2～	2		
		教育法制論		2	2～			
		生涯学習社会論		2	2～			
		教育経営学		2	2～			
		学校教育実践学		2	2～			
		教職とマネジメント		2	3～			
	選択	人権・同和教育	2	1～				
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	必修	カリキュラム論	2	2	2		
	道徳の指導法	必修	道徳教育論	2	3	2		
	特別活動の指導法	必修	特別活動論	2	2	2		
	教育の方法及び技術	必修	教育の方法と技術	2	2	2	4	
		選択 必修	現代教育方法学	2	2～	2		
			学習意欲向上の原理と方法	2	2～			
			教育評価・測定	2	2～			
			情報メディアの授業活用	2	3～			
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目		必修	生徒指導論Ⅰ（教育相談，進路指導を含む）	2	2	2	4	
		選択 必修	教育相談論A	2	3～	2		
			進路指導論	2	3～			
			生徒指導論ⅡA	2	3～			
教職実践演習		必修	教職実践演習（中学校）	2	4	2		

(中)

2 教職に関する科目に準ずる科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教職に関する科目に準ずる科目	現代的課題	選択必修	E S D の理論と実践	2	2 ～	2	幼免不可 幼免不可
			社会福祉	2	2 ～		
			児童福祉	2	2 ～		
			青少年と情報社会	2	2 ～		
			養護原理	2	3 ～		
			家族援助論	2	3 ～		
	体験的学習		フィールド・チャレンジA	1	1 ～		幼免不可
			フィールド・チャレンジB	1	1 ～		
			野外活動の理論と実際A（山の体験学習）	2	2 ～		
			野外活動の理論と実際B（海の体験学習）	2	1 ～		
			史跡実地踏査	1	2 ～		
			教科横断的思考・表現法	くらしと環境	2		
	論理と表現			2	2 ～		
	学校経営と学校図書館			2	4		
	学校図書館メディアの構成			2	4		
	学習指導と学校図書館			2	4		
	読書と人間形成			2	4		
	情報メディアの活用			2	4		

II コース科目

教職に関する科目（教育実習）

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教育実習		必修	教育実習Ⅰ（観察・参加実習）	1	1・2	1	7
			教育実習Ⅱ（中学校教育実習基礎研究）	1	3	1	
			教育実習Ⅲ（附属中学校実習）	4	3	4	
			教職実践インターンシップ	1	4	1	

Ⅲ 専修科目（各教科の指導法及び教科に関する科目）

国語教育専修

区 分 Ⅰ		区 分 Ⅱ	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件		備 考
教職に 関する 科目	教育課程 及び指導 法に関する 科目	各教科の指導法 (国語)	必修	中等国語科指導法 A	2	2	2	6	
				中等国語科指導法 B	2	2	2		
			選択 必修	中等国語科指導法開発 A	2	3～	2		
				中等国語科指導法開発 B	2	3～			
				中等国語科実地研究	2	3～			
教科に 関する 科目	国語	国語学（音声言語 及び文章表現に関 するものを含む。）	必修	国語学概論	2	1	2	46	
				中等国語科内容論（国語学）	2	1	2		
				国語学（文章表現）	2	2	2		
				国語学（古典文法）	2	2	2		
			選択 必修	国語学（音声言語）	2	2～			
				国語学（地域言語）	2	2～			
				国語学（古代語）	2	2～			
				国語学（現代語）	2	2～			
		国文学（国文学史 を含む。）	必修	国文学概論	2	1	2		
				中等国語科内容論（国文学）	2	1	2		
				国文学（古代文学）	2	2	2		
				国文学（現代文学）	2	2	2		
			選択 必修	国文学（中世文学）	2	2～			
				国文学（近世文学）	2	2～			
				国文学（近代文学）	2	2～			
				国文学（児童文学）	2	2～			
		漢文学	必修	漢文学概論	2	1	2		
				中等国語科内容論（漢文学）	2	1	2		
				漢文学（経子）	2	2	2		
			選択 必修	漢文学（史伝・詩文）	2	2～			
		書道（書写を中心 とする。）	必修	書写・書道概論	1	1	1		
			選択 必修	書写・書道演習	1	2～			
		国語学	選択 必修	中等国語科内容開発（国語学）	2	3～		30	
		国文学		中等国語科内容開発（国文学）	2	3～	2		

注 「教科に関する科目」については、中学校と高等学校で科目領域名（区分Ⅱ）が異なります。詳しくは、本手引の「○参考
1 教育職員免許状取得に要する単位数について」を参照してください。

社会科教育専修

区 分 I		区 分 II		選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考		
教職に関する 科目	教育課程 及び指導する 科目	各教科の指導法 (社会)		必修	中等社会科指導法 A	2	2	2	6	46		
				中等社会科指導法 B	2	2	2					
				中等社会科指導法開発	2	3	2					
		各教科の指導法 (地理歴史)		選択 必修	社会科教育演習 A	2	3～					
					社会科教育演習 B	2	2～					
					社会科教育特講 (地理歴史科指導法)	2	2～					
		各教科の指導法 (公民)		地理歴史科授業研究	2	2～						
				社会科教育特講 (公民科指導法)	2	2～						
				公民科授業研究	2	3～						
教科に関する 科目	社会	日本史 及び外国史	日本史	必修	日本史概論	2	1	2	30			
				選択 必修	中等社会科内容論 (日本史)	2	2～					
					日本史演習 A	2	3～					
			日本史演習 B		2	2～						
			外国史	必修	世界史概論	2	1	2				
				選択 必修	中等社会科内容論 (世界史)	2	2～					
		世界史演習 A			2	3～						
		世界史演習 B	2		2～							
		地理学 (地誌を含む。)		必修	人文地理学概論	2	1	2			2	
					自然地理学概論	2	1	2				
				選択 必修	地誌 A	2	2～					
					地誌 B	2	2～					
					地理学基礎実験	2	2～					
					地理学野外実習	2	2～					
					人文地理学演習 A	2	3～					
					人文地理学演習 B	2	2～					
					人文地理学調査法	2	2～					
					自然地理学演習 A	2	3～					
		自然地理学演習 B	2	2～								
		自然地理学調査法	2	2～								
		「法学, 政治学」		必修	法学概論 (国際法を含む)	2	1	2				
					政治学概論 (国際政治を含む)	2	1	2				
				選択 必修	中等社会科内容論 (法学)	2	2～					
					法学演習 A	2	3～					
					法学演習 B	2	2～					
					中等社会科内容論 (政治学)	2	2～					
		「社会学, 経済学」	必修	政治学演習 A	2	3～						
				政治学演習 B	2	2～						
				社会学概論	2	1				2		
				選択 必修	中等社会科内容論 (社会学)	2				2～		
				社会調査	2	2～						
				社会学演習 A	2	3～						
		社会学演習 B	2	2～								
		経済学 A (国際経済を含む)	2	1～								
		経済学 B (国際経済を含む)	2	1～								

(中)

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教科に 関する 科目	社会	「哲学，倫理学， 宗教学」	必修	倫理学概論	2	1	2		
			選択 必修	中等社会科内容論（倫理学）	2	2～			
				倫理学演習 A	2	3～			
				倫理学演習 B	2	2～			
				哲学特講	2	2～			
		日本史	選択 必修	中等歴史教育内容開発（日本史）	2	3～			
		外国史		中等歴史教育内容開発（外国史）	2	3～			
		地理学		中等地理教育内容開発	2	3～			
		法律学		中等法政治教育内容開発	2	3～			
							2		

注 「教科に関する科目」については，中学校社会と高等学校地歴・公民で科目領域名（区分Ⅱ）が異なっています。詳しくは，本手引の「○参考 1 教育職員免許状取得に要する単位数について」を参照してください。

数学教育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法(数学)	選択必修	中等数学科指導法 A	2	2～	4	6	
				中等数学科指導法 B	2	2～			
				中等数学科指導法 C	2	2～			
				中等数学科指導法開発 A	2	3～			
				中等数学科指導法開発 B	2	3～			
教科に関する科目	数学	代数学	必修	線形代数学 I	2	1	2	46	
				線形代数学 II	2	1	2		
				代数学 I	2	2	2		
				代数学 II	2	2	2		
			選択必修	代数学 III	2	3～			
		幾何学	必修	幾何学 I	2	2	2		
				幾何学 II	2	2	2		
			選択必修	集合・位相	2	1～			
				幾何学統論 A	2	3～			
				幾何学統論 B	2	3～			
		解析学	必修	幾何学統論 C	2	3～			
				解析学 I	2	1	2		
				解析学 II	2	1	2		
				解析学 III	2	2	2		
				解析学 IV	2	2	2		
			選択必修	解析学統論 A	2	3～			
				解析学統論 B	2	3～			
				解析学統論 C	2	3～			
				解析学統論 D	2	3～			
		「確率論, 統計学」	選択必修	確率論	2	2～			
				統計学	2	2～	2		
		コンピュータ	必修	数理情報処理	2	2	2		
		代数学	選択必修	中等数学科内容開発 (代数)	2	3～			
		幾何学		中等数学科内容開発 (幾何)	2	3～	2		
		解析学		中等数学科内容開発 (解析)	2	3～			

理科教育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教職に 関する 科目	教育課程 及び指導 に関する 科目	各教科の指導法 (理科)	必修	中等理科指導法Ⅰ A	1	3	1	6	46
				中等理科指導法Ⅰ B	1	3	1		
				中等理科指導法Ⅱ A	1	3	1		
				中等理科指導法Ⅱ B	1	3	1		
			選択 必修	中等理科指導法開発 A	2	3～	2		
				中等理科指導法開発 B	2	3～			
				中等理科指導法Ⅱ C	2	3～			
教科に 関する 科目	理科	物理学	必修	物理学概論	2	1	2	30	
				中等理科内容論 (物理学)	2	2	2		
				物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2	1	2		
			選択 必修	電磁気学	2	2～			
				力学・熱力学	2	2～			
				現代物理学	2	2～			
				物理学研究	1	3～			
		化学	必修	化学概論	2	1	2		
				中等理科内容論 (化学)	2	2	2		
				化学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	1	2		
			選択 必修	現代化学	2	2～			
				無機化学	2	2～			
				無機化学実験	1	3～			
				有機化学	2	2～			
				有機化学実験	1	3～			
		生物化学	2	2～					
		生物学	必修	生物学概論	2	1	2		
				中等理科内容論 (生物学)	2	2	2		
				生物学実験(コンピュータ活用を含む)	2	2	2		
			選択 必修	応用生物学	2	2～			
				植物学	2	2～			
				植物学実験	1	3～			
				動物学	2	2～			
				動物学実験	1	3～			
		地学	必修	地学概論	2	1	2		
				中等理科内容論 (地学)	2	2	2		
				地学実験 (コンピュータ活用を含む)	2	2	2		
			選択 必修	固体地球科学	2	2～			
				地学巡検	1	2～			
				気象学	2	2～			
				大気環境物理学	2	2～			
				宇宙惑星科学	2	2～			
				地球科学野外実習	2	2～			
				大気水圏科学研究	1	3～			
		物理学	選択 必修	中等理科内容開発 (物理学)	2	3～	2		
		化学		中等理科内容開発 (化学)	2	3～			
		生物学		中等理科内容開発 (生物学)	2	3～			
		地学		中等理科内容開発 (地学)	2	3～			

注 小学校教育コース開設の理科基礎（物理学）、理科基礎（化学）、理科基礎（生物学）、理科基礎（地学）を履修することが望ましい。

音楽教育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考	
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法（音楽）	必修	中等音楽科指導法A	2	2	2	6	46	
				中等音楽科指導法B	2	2	2			
			選択必修	中等音楽科指導法開発A	2	3～	2			
				中等音楽科指導法開発B	2	3～				
教科に関する科目	音楽	ソルフェージュ	必修	ソルフェージュ	2	1	2	30		
		声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	必修	声楽基礎演習	2	1	2			
				合唱	2	2	2			
			選択必修	声楽演習Ⅰ a	2	2～				
				声楽演習Ⅰ b	2	2～				
				声楽演習Ⅱ a	2	3～				
				声楽演習Ⅱ b	2	4				
		器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	必修	ピアノ基礎演習	2	1	2			
				管弦打楽器基礎演習	2	1	2			
				合奏	2	2	2			
				和楽器演習	2	2	2			
				伴奏	2	3	2			
			選択必修	ピアノ演習Ⅰ a	2	2～				
				ピアノ演習Ⅰ b	2	2～				
				ピアノ演習Ⅱ a	2	3～				
				ピアノ演習Ⅱ b	2	4				
				弦楽演習Ⅰ a	2	2～				
				弦楽演習Ⅰ b	2	2～				
				弦楽演習Ⅱ a	2	2～				
				弦楽演習Ⅱ b	2	2～				
				管打演習Ⅰ a	2	2～				
				管打演習Ⅰ b	2	2～				
				管打演習Ⅱ a	2	3～				
				管打演習Ⅱ b	2	4				
		指揮法	必修	指揮法	2	2	2			
		音楽理論、作曲法（編曲法を含む。）及び音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	必修	音楽理論演習	2	1	2			
				作曲・編曲法Ⅰ	2	2	2			
				音楽史	2	2	2			
			選択必修	作曲・編曲法Ⅱ	2	2～				
				作曲演習Ⅰ	2	2～				
				作曲演習Ⅱ	2	2～				
				音楽文化論	2	2～				
				日本音楽概論	2	3～				
		声楽	選択必修	中等音楽科内容開発（声楽）	2	3～	4			
		器楽		中等音楽科内容開発（ピアノ）	2	3～				
				中等音楽科内容開発（管楽器）	2	3～				
		音楽理論・作曲法		中等音楽科内容開発（作曲）	2	3～				
				中等音楽科内容開発（音楽学）	2	3～				

美術教育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
教職に 関する 科目	教育課程 及び指導 に関する 科目	各教科の指導法 (美術)	必修	中等美術科指導法 A	2	2	2	46
				中等美術科指導法 B	2	2	2	
			選択 必修	中等美術科指導法開発 A	2	3～	2	
				中等美術科指導法開発 B	2	3～		
		各教科の指導法 (工芸)		工芸科指導法 A	2	2～		
				工芸科指導法 B	2	3～		
教科に 関する 科目	美術	絵画（映像メディア 表現を含む。）	必修	絵画 I	2	1	2	46
			選択 必修	デッサン	2	1～		
				水彩画演習	2	1～		
				野外写生	2	1～		
				版画演習	2	1～		
				イメージデッサン	2	1～		
				絵画 II	2	2～		
				人体デッサン	2	2～		
				絵画制作	2	2～		
				絵画研究	4	3～		
		彫刻	必修	彫刻 I	2	1	2	
			選択 必修	彫刻 II	2	2～		
				彫刻制作	2	2～		
				彫刻研究	4	3～		
		デザイン（映像メ ディア表現を含む 。）	必修	デザイン I	2	1	2	
			選択 必修	デザイン II	2	2～		
				デザイン III	2	3～		
				デザイン理論	2	2～		
				デザイン研究	2	3～		
		工芸	必修	工芸 I	2	1	2	
			選択 必修	工芸 II（陶芸）	2	2～		
				工芸 II（素材と加工）	2	2～		
				工芸理論	2	2～		
				工芸制作（陶芸）	2	2～		
				工芸研究（陶芸）	2	3～		
				工芸研究（木工芸）	2	3～		
		美術理論及び美術 史（鑑賞並びに日 本の伝統美術及び アジアの美術を含 む。）	必修	美術理論・美術史 I	2	1	2	
				美術鑑賞	2	2	2	
			選択 必修	美術理論・美術史 II	2	2～		
				美術理論・美術史演習 A	2	3～		
				美術理論・美術史演習 B	2	3～		
		絵画	必修	中等美術科内容開発（絵画）	2	3	2	
		彫刻		中等美術科内容開発（彫刻）	2	3	2	
		デザイン		中等美術科内容開発（デザイン）	2	3	2	
		工芸		中等美術科内容開発（工芸）	2	3	2	
	工芸	図法及び製図	選択 必修	図法製図演習	2	1～		

注 「教科に関する科目」については、中学校と高等学校で科目領域名（区分Ⅱ）が異なります。詳しくは、本手引の「○参考
1 教育職員免許状取得に要する単位数について」を参照してください。なお、**工芸免許取得方法は、教員免許取得ガイドを参照し
てください。**

保健体育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法（保健体育）	必修	中等保健体育科指導法A	2	2	2	6	
				中等保健体育科指導法B	2	2	2		
			選択必修	中等保健体育科指導法開発A	2	3～	2		
				中等保健体育科指導法開発B	2	3～			
教科に関する科目	保健体育	体育実技	選択必修	体育実技（体づくり運動）	1	1～		6	
				体育実技（器械運動）	1	1～			
				体育実技（陸上競技）	1	1～			
				体育実技（バスケットボール）	1	1～			
				体育実技（サッカー）	1	1～			
				体育実技（バレーボール）	1	1～			
				体育実技（テニス）	1	1～			
				体育実技（ニュースポーツ）	1	1～			
				体育実技（卓球）	1	1～			
				体育実技（水泳）	1	1～			
				体育実技（リズムダンス・創作ダンス）	1	1～			
				体育実技（フォークダンス・社交ダンス）	1	1～			
				体育実技（柔道）	1	1～			
				体育実技（剣道）	1	1～			
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学」及び運動学（運動方法学を含む。）	選択必修	体育原理	2	1～		4	
				体育史	2	1～			
				体育心理学	2	2～			
				体育社会学	2	2～			
				体育経営管理学	2	2～			
			必修	運動学（運動方法学を含む）	2	1	2		
			選択必修	体力トレーニングの理論と実際	2	1～			
				運動方法学	2	2～			
		生理学（運動生理学を含む。）	必修	生理学（運動生理学を含む）	2	2	2	30	
			選択必修	運動栄養学	2	1～			
				スポーツ医学	2	2～			
		衛生学及び公衆衛生学	必修	公衆衛生学・衛生学（予防医学を含む）	2	2	2		
			選択必修	予防医学	2	3～			
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	必修	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む）	2	2	2		
			選択必修	救急処置	2	2～			
				精神保健	2	2～			
				性教育	2	2～			
		体育原理	選択必修	中等保健体育科内容開発（体育学）	2	3～		2	
		運動学		中等保健体育科内容開発（運動学）	2	3～			
		学校保健		中等保健体育科内容開発（学校保健）	2	3～			

技術教育専修

区 分 I		区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件		備 考
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法（技術）	必修	中等技術科指導法 A	2	2	2	6	
				中等技術科指導法 B	2	2	2		
			選択必修	中等技術科指導法開発 A	2	3～	2		
				中等技術科指導法開発 B	2	3～			
教科に関する科目	技術	木材加工（製図及び実習を含む。）	必修	木材学（製図及び実習を含む）	2	1	2	46	
				木材材料と加工	2	2	2		
			選択必修	図学と製図	2	2～			
				木材加工演習	2	2～			
				木材活用論	2	2～			
		金属加工（製図及び実習を含む。）	必修	金属学（製図及び実習を含む）	2	2	2		
			選択必修	金属加工演習	2	2～			
		機械（実習を含む。）	必修	機械学（実習を含む）	2	2	2		
				機構と機械要素	2	2	2		
			選択必修	材料と動力の力学	2	2～			
				機械演習	2	2～			
				機械活用論	2	3～			
		電気（実習を含む。）	必修	電気学（実習を含む）	2	2	2		30
			選択必修	電気エネルギーと変換	2	2～			
				電子技術	2	2～			
				電気演習	2	2～			
				電気活用論	2	3～			
		栽培（実習を含む。）	必修	栽培学（実習を含む）	2	1	2		
			選択必修	栽培演習	2	2～			
		情報とコンピュータ（実習を含む。）	必修	情報学（実習を含む）	2	2	2		
				情報技術	2	2	2		
			選択必修	情報処理	2	2～			
				情報演習	2	2～			
				情報活用論	2	3～			
		木材加工	選択必修	中等技術科内容開発（木材）	2	3～		4	
		機械		中等技術科内容開発（機械）	2	3～			
		電気		中等技術科内容開発（電気）	2	3～			
		情報とコンピュータ		中等技術科内容開発（情報）	2	3～			

家政教育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法（家庭）	必修	中等家庭科指導法 A	2	2	2	6	
				中等家庭科指導法 B	2	2	2		
			選択必修	中等家庭科指導法開発 A	2	3～	2		
				中等家庭科指導法開発 B	2	3～			
教科に関する科目	家庭	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	必修	中等家庭科内容論（家庭生活領域）	2	1	2	46	
				家庭経営論（家族関係学及び家庭経済学を含む）	2	1	2		
			選択必修	家政学と家庭科教育	2	1～			
				現代の家族 A	2	2～			
				現代の家族 B	2	2～			
		被服学（被服製作実習を含む。）	必修	中等家庭科内容論（被服領域）	2	1	2		
				衣生活論	2	1	2		
				被服構成の理論と実習	2	2	2		
			選択必修	被服科学 A	2	2～			
				被服科学 B	2	2～			
				被服科学実験	2	3～			
				生活科学演習（衣生活）	2	2～			
		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	必修	中等家庭科内容論（食物領域）	2	1	2		
				食生活論（栄養学及び食品学を含む）	2	1	2		
				調理の理論と実習	2	2	2		
			選択必修	食物調製の科学	2	1～			
				食物科学 A	2	2～			
				食物科学 B	2	2～			
		住居学	必修	中等家庭科内容論（住居領域）	2	1	2		
				住生活論	2	1	2		
			選択必修	住生活の設計（製図を含む）	2	2～			
				住環境と住生活管理	2	2～			
				住生活演習	2	3～			
		保育学（実習を含む。）	必修	子どもの成長と家族（実習及び家庭看護を含む）	2	1	2		
		家庭電気・機械及び情報処理	必修	生活と情報（家庭電気・機械を含む）	2	1	2		
		家庭経営学	選択必修	中等家庭科内容開発（家庭生活領域）	2	3～			2
		被服学		中等家庭科内容開発（被服領域）	2	3～			
		食物学		中等家庭科内容開発（食物領域）	2	3～			
		住居学		中等家庭科内容開発（住居領域）	2	3～			

注 「教科に関する科目」については、中学校と高等学校で科目領域名（区分Ⅱ）が異なります。詳しくは、本手引の「○参考 1 教育職員免許状取得に要する単位数について」を参照してください。

英語教育専修

区 分 I		区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件		備 考
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法（英語）	必修	中等英語科指導法A	2	1	2	6	46
				中等英語科指導法B	2	2	2		
				中等英語科指導法開発	2	3	2		
			選択必修	英語科教育（第二言語習得）	2	2～			
英語科教育（リーディング・リスニング）	2	2～							
教科に関する科目	英語	英語学	必修	中等英語科内容論（英語学）	2	1	2		
				英語学概論	2	2	2		
			選択必修	英語の歴史	2	2～			
				現代英語の文法	2	2～			
				言語と社会	2	2～			
				音声英語の実践	2	2～			
		英米文学	必修	中等英語科内容論（英米文学）	2	1	2		
				英米文学概論	2	2	2		
			選択必修	英米文学と創作	2	2～			
				英米文学と表現	2	2～			
				英詩鑑賞	2	2～			
				声と言葉（英米文学）	2	2～			
		英語コミュニケーション	必修	中等英語科内容論（英語コミュニケーション）	2	1	2		
				英語リスニング・スピーキング初級	1	1	1		
				英語リーディング・ライティング初級	1	1	1		
			選択必修	英語リスニング・スピーキング中級A	1	2～			
				英語リスニング・スピーキング中級B	1	2～			
				英語リスニング・スピーキング上級	1	3～			
				英語リーディング・ライティング中級A	1	2～			
				英語リーディング・ライティング中級B	1	2～			
				英語リーディング・ライティング上級A	1	3～			
				英語リーディング・ライティング上級B	1	4			
		異文化理解	必修	中等英語科内容論（異文化理解）	2	1	2		
				異文化理解概論	2	2	2		
		英語学	選択必修	中等英語科内容開発（英語学）	2	3～	2		
		英米文学		中等英語科内容開発（英米文学）	2	3～			
		異文化理解		中等英語科内容開発（異文化理解）	2	3～			

(中)

IV 自由選択科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
※自由選択科目には、選択科目の単位の他、卒業要件単位を超えて修得した 選択必修科目の単位、及び他学部開講の専門教育科目の修得単位をあてる ことができる。(教養教育科目は、自由選択科目にあてることができない。)						6	

V 卒業研究

科目区分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
卒業研究	必修		6	4	6	※卒業研究の履修に当 たっては、18頁を参 照のこと。

学校教育教員養成課程
[特別支援教育コース]

学校教育教員養成課程 特別支援教育コース 基礎免許：小学校教諭免許 卒業要件単位数							
教養教育科目	別表第 8 卒業認定に必要な教養教育科目単位数の表により単位を修得すること。					3 1 単位	
専門科目	学部科目	教職に関する科目	教職の意義等に関する科目			2 単位	1 1 1 単位
			教育の基礎理論に関する科目	教育の理念, 歴史及び思想 心身の発達及び学習の過程 社会的, 制度的又は経営的事項	4 単位 6 単位 4 単位	1 4 単位	
			教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 道徳の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術	2 単位 2 単位 2 単位 4 単位	1 0 単位	
			生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目			4 単位	
			教職実践演習			2 単位	
		教職に関する科目に準ずる科目			2 単位		
	コース科目	教職に関する科目	各教科の指導法 (小学校)			1 8 単位	
			教育実習 (小学校)			7 単位	
		教科に関する科目 (小学校)			1 8 単位		
		特別支援教育に関する科目			2 8 単位		
		卒業研究			6 単位		
卒業要件単位数合計					1 4 2 単位		

学校教育教員養成課程 特別支援教育コース 基礎免許：中学校教諭免許 卒業要件単位数							
教養教育科目	別表第8 卒業認定に必要な教養教育科目単位数の表により単位を修得すること。					31単位	
専門科目	学部科目	教職に関する科目	教職の意義等に関する科目			2単位	109単位
			教育の基礎理論に関する科目	教育の理念, 歴史及び思想 心身の発達及び学習の過程 社会的, 制度的又は経営的事項	4単位 6単位 4単位	14単位	
			教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 道徳の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術	2単位 2単位 2単位 4単位	10単位	
			生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目			4単位	
			教職実践演習			2単位	
		教職に関する科目に準ずる科目			2単位		
	コース科目	教職に関する科目	各教科の指導法 (中学校)			4単位	
			教育実習 (中学校)			7単位	
		教科に関する科目 (中学校)			30単位		
		特別支援教育に関する科目			28単位		
		卒業研究			6単位		
卒業要件単位数合計					140単位		

(特)

I 学部科目

1 教職に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教職の意義等に関する科目		必修	教職論	2	1	2		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	必修	学校と教育の歴史	2	1	2	4	修得することが望ましい
		選択必修	教育哲学	2	2～	2		
			日本教育史	2	2～			
			西洋教育史	2	2～			
	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	必修	学校教育心理学	2	1	2	6	
			発達障害教育概論	2	3	2		
		選択必修	発達心理学A	2	1～	2		
			発達心理学B	2	1～			
			発達心理学C	2	1～			
	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項	必修	教育の制度と社会	2	1	2	4	
		選択必修	教育社会学	2	2～	2		
			教育法制論	2	2～			
			生涯学習社会論	2	2～			
			教育経営学	2	2～			
			学校教育実践学	2	2～			
			教職とマネジメント	2	3～			
		選択	人権・同和教育	2	1～			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	必修	カリキュラム論	2	2	2		
	道徳の指導法	必修	道徳教育論	2	3	2		
	特別活動の指導法	必修	特別活動論	2	2	2		
	教育の方法及び技術	必修	教育の方法と技術	2	2	2	4	
		選択必修	現代教育方法学	2	2～	2		
			学習意欲向上の原理と方法	2	2～			
			教育評価・測定	2	2～			
情報メディアの授業活用	2	3～						
生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目		必修	生徒指導論Ⅰ(教育相談，進路指導を含む)	2	2	2	4	
		選択必修	教育相談論A	2	3～	2		
			進路指導論	2	3～			
			生徒指導論ⅡA	2	3～			
教職実践演習		必修	教職実践演習（小・中）	2	4	2		

修得することが望ましい

(特)

2 教職に関する科目に準ずる科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教職に関する科目 に準ずる科目	現代的課題	選択 必修	E S Dの理論と実践	2	2～	2	幼・中・高免不可 中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可 幼・中・高免不可
			外国語活動の指導法	2	2～		
			こどもと異文化理解	2	2～		
			小学校におけるものづくり・情報教育	2	2～		
			小学校における木材加工教育	2	2～		
			小学校におけるエネルギー・環境教育	2	2～		
			小学校における情報倫理	2	2～		
			動くおもちゃのしくみと科学	2	2～		
			社会福祉	2	2～		
			児童福祉	2	2～		
			青少年と情報社会	2	2～		
			養護原理	2	3～		
			家族援助論	2	3～		
	体験的学習		フィールド・チャレンジA	1	1～		幼免不可 幼・中・高免不可 幼免不可
			フィールド・チャレンジB	1	1～		
			野外活動の理論と実際A（山の体験学習）	2	2～		
			野外活動の理論と実際B（海の体験学習）	2	1～		
			史跡実地踏査	1	2～		
	教科横断的思考・ 表現法		算数読解論	2	1～		
			くらしと環境	2	1～		
			論理と表現	2	2～		
			学校経営と学校図書館	2	4		
			学校図書館メディアの構成	2	4		
			学習指導と学校図書館	2	4		
			読書と人間形成	2	4		
			情報メディアの活用	2	4		

(特)

【基礎免許：小学校】

Ⅱ コース科目

1 教職に関する科目（各教科の指導法）

区 分 I	区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
各教科の指導法 (小学校)	国語(書写を含む)	必修	初等国語科授業研究 (書写を含む)	2	2	2	1 8
	社会	必修	初等社会科授業研究	2	2	2	
	算数	選択 必修	算数科授業研究A	2	2 ～	2	
			算数科授業研究B	2	2 ～		
	理科	必修	初等理科授業研究A	1	2	1	
			初等理科授業研究B	1	2	1	
	生活	選択 必修	生活科授業研究A	2	2 ～	2	
			生活科授業研究B	2	2 ～		
	音楽	必修	初等音楽科授業研究	2	2	2	
	図画工作	必修	図画工作科授業研究	2	2	2	
体育	必修	初等体育科授業研究	2	2	2		
家庭	選択 必修	初等家庭科授業研究A	2	2 ～	2		
		初等家庭科授業研究B	2	2 ～			

2 教職に関する科目（教育実習）

区 分 I	区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件	備 考
教育実習		必修	教育実習Ⅰ（観察・参加実習）	1	1・2	1	7
			教育実習Ⅱ（小学校教育実習基礎研究）	1	3	1	
			教育実習Ⅲ（附属小学校実習）	4	3	4	
			教職実践インターンシップ	1	4	1	

3 教科に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
国語		必修	初等国語科内容研究Ⅰ（書写を含む）	2	1	2	1 8
社会		必修	初等社会科内容研究	2	2	2	
算数		必修	算数科内容研究	2	2	2	
理科		必修	初等理科内容研究	2	2	2	
生活		選択 必修	生活科内容研究A	2	2～	2	
			生活科内容研究B	2	2～		
音楽		必修	初等音楽科内容研究	2	2	2	
図画工作		必修	図画工作科内容研究	2	2	2	
体育		必修	初等体育科内容研究	2	2	2	
家庭		必修	初等家庭科内容研究	2	2	2	

(特)

【基礎免許：中学校】

Ⅱ コース科目

1 教職に関する科目（各教科の指導法）

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
各教科の指導法 (中学校)	国語	必修	中等国語科指導法 A	2	2	2	4	
			中等国語科指導法 B	2	2	2		
	社会	選択 必修	中等社会科指導法 A	2	2～	2	4	
			中等社会科指導法 B	2	2～	2		
			中等社会科指導法開発	2	3～	2		
	数学	選択 必修	中等数学科指導法 A	2	2～	2	4	
			中等数学科指導法 B	2	2～	2		
			中等数学科指導法 C	2	2～	2		
	理科	必修	中等理科指導法 I A	1	3	1	4	
			中等理科指導法 I B	1	3	1		
			中等理科指導法 II A	1	3	1		
			中等理科指導法 II B	1	3	1		
	音楽	必修	中等音楽科指導法 A	2	1	2	4	
			中等音楽科指導法 B	2	2	2		
	美術	必修	中等美術科指導法 A	2	2	2	4	
			中等美術科指導法 B	2	2	2		
	保健体育	必修	中等保健体育科指導法 A	2	2	2	4	
			中等保健体育科指導法 B	2	2	2		
	技術	必修	中等技術科指導法 A	2	2	2	4	
			中等技術科指導法 B	2	2	2		
	家庭	必修	中等家庭科指導法 A	2	2	2	4	
			中等家庭科指導法 B	2	2	2		
	英語	選択 必修	中等英語科指導法 A	2	1～	2	4	
			中等英語科指導法 B	2	2～	2		
			中等英語科指導法開発	2	3～	2		

2 教職に関する科目（教育実習）

区 分 I	区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件		備 考
教育実習		必修	教育実習 I（観察・参加実習）	1	1・2	1	7	
			教育実習 II（中学校教育実習基礎研究）	1	3	1		
			教育実習 III（附属中学校実習）	4	3	4		
			教職実践インターンシップ	1	4	1		

3 教科に関する科目

区 分 I	区 分 II	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件	備 考
			※基礎免許が中学校の「教科に関する科目」は、44頁～54頁を参照し、卒業に必要な単位を修得すること。			30	

(特)

Ⅲ 特別支援教育に関する科目

区 分		選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考	
特別支援教育の基礎理論に関する科目		必修	特別支援教育概論	2	1	2		
		選択	障害者教育史概論	2	2～			
			特別支援教育演習	2	3～			
特別支援教育 領域に関する 科目	心身に障害のある幼 児，児童又は生徒の心 理，生理及び病理に関 する科目	必修	知的障害者心理学概論	2	2	2	2 8 知的障害者領域 知的障害者領域 肢体不自由者領域 病弱者領域 知的障害者領域 知的障害者領域 知的障害者領域 肢体不自由者領域 知的障害者領域 肢体不自由者領域 知的障害者領域 知的障害者領域	
			知的障害者生理・病理学概論	2	1	2		
			肢体不自由者心理・生理・病理学概論	2	2	2		
			病弱者心理・生理・病理学概論	2	2	2		
		選択	特別支援心理演習	2	3～			
			特別支援病理演習	2	3～			
		心身に障害のある幼 児，児童又は生徒の教 育課程及び指導法に関 する科目	必修	知的障害者教育課程・方法論	2	3		2
				肢体不自由者教育課程・方法論	2	3		2
	病弱者教育課程・方法論			2	2	2		
	知的障害者指導論			2	2	2		
	選択		特別支援臨床演習	2	3～			
			特別支援実践演習	2	3～			
	免許状に定め られることと なる特別支援 教育領域以外 の領域に関す る科目	必修	視覚障害者教育概論	1	2	1		
			聴覚障害者教育概論	1	2	1		
発達障害者心理概論			2	2	2			
重度・重複障害者教育概論			1	2	1			
心身に障害のある幼児，児童又は生徒 についての教育実習		必修	特別支援教育実習Ⅱ（特別支援教育実 習基礎研究）	1	2・3	1		
			特別支援教育実習Ⅲ（附属特別支援学 校実習）	4	3	4		

Ⅳ 卒業研究

科目区分	選 必	授 業 科 目 名	単 位	履 修 年 次	卒 業 要 件	備 考
卒業研究	必修		6	4	6	※卒業研究の履修に当たっては、18頁を参照のこと。

学校教育教員養成課程
[幼児教育コース]

学校教育教員養成課程　幼児教育コース　卒業要件単位数							
教養教育科目	別表第8　卒業認定に必要な教養教育科目単位数の表により単位を修得すること。					31単位	
専門科目	学部科目	教職に関する科目	教職の意義等に関する科目			2単位	109単位～ 110単位
			教育の基礎理論に関する科目	教育の理念, 歴史及び思想 心身の発達及び学習の過程 社会的, 制度的又は経営的事項	4単位 6単位 4単位	14単位	
			教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 教育の方法及び技術	2単位 2単位	4単位	
			教職実践演習			2単位	
		教職に関する科目に準ずる科目				6単位	
	コース科目	教職に関する科目	教育実習			7単位	
			教育の基礎理論に関する科目	4単位	26単位		
			教育課程及び指導法に関する科目	18単位			
			生徒指導, 教育相談及び進路指導等に関する科目	2単位			
		教科に関する科目				20単位	
		系科目				22単位～ 23単位	
	卒業研究					6単位	
卒業要件単位数合計						140単位～ 141単位	

(注) 小学校教諭及び中学校教諭の普通免許状を取得する場合は、「介護等体験」が必要である。

(幼)

I 学部科目

1 教職に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教職の意義等に関する科目		必修	教職論	2	1	2		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	必修	学校と教育の歴史	2	1	2	4	
		選択 必修	教育哲学	2	2～	2		
			日本教育史	2	2～			
			西洋教育史	2	2～			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	必修	学校教育心理学	2	1	2	6	
			発達障害教育概論	2	3	2		
			発達心理学C	2	1	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	必修	教育の制度と社会	2	1	2	4	
		選択 必修	教育社会学	2	2～	2		
			教育法制論	2	2～			
			生涯学習社会論	2	2～			
			教育経営学	2	2～			
			学校教育実践学	2	2～			
			教職とマネジメント	2	3～			
		選択	人権・同和教育	2	1～			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	必修	カリキュラム論	2	2	2		
	教育の方法及び技術	必修	教育の方法と技術	2	2	2		
教職実践演習		必修	教職実践演習（幼稚園）	2	4	2		

2 教職に関する科目に準ずる科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考	
教職に関する科目 に準ずる科目	現代的課題	必修	社会福祉	2	2	2	6	中・高免不可	
			児童福祉	2	2	2			
			家族援助論	2	3	2			
		選択	E S Dの理論と実践	2	2～				
			こどもと異文化理解	2	2～				
			体験的学習		フィールド・チャレンジA				1
	フィールド・チャレンジB				1				1～
	野外活動の理論と実際A（山の体験学習）				2				2～
	野外活動の理論と実際B（海の体験学習）				2				1～
	教科横断的思考・ 表現法		くらしと環境	2	1～				

Ⅱ コース科目

1 教職に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教育実習		必修	教育実習Ⅰ（観察・参加実習）	1	1・2	1	7	
			教育実習Ⅱ（幼稚園教育実習基礎研究）	1	3	1		
			教育実習Ⅲ（附属幼稚園実習）	4	3	4		
			教職実践インターンシップ	1	4	1		
教育の基礎理論に 関する科目	教育の理念並びに 教育に関する歴史 及び思想	必修	幼児教育概説	2	1	2	4	
			幼児教育学演習	2	1	2		
		選択 必修	幼児教育史	2	2～			
教育課程及び指導 法に関する科目	教育課程の意義及 び編成の方法	必修	幼児カリキュラム開発	2	3	2	18	2 6
	保育内容の指導法	必修	保育内容総論	2	2	2		
			幼児の人間関係	2	2	2		
			幼児の言葉	2	2	2		
			幼児の環境	2	2	2		
			幼児の健康	2	3	2		
			幼児の音楽表現	2	3	2		
			幼児の造形表現	2	3	2		
	教育の方法及び技術	必修	幼児教育方法	2	2	2		
生徒指導、教育相 談及び進路指導等 に関する科目	幼児理解の理論及 び方法	必修	幼児臨床心理学	2	2	2		
		選択 必修	幼児研究法	2	4			

2 教科に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考	
教科に関する科目	体育	必修	幼児体育 A	1	2	1	6		
			幼児体育 B	1	2	1			
	音楽	必修	幼児音楽 I	2	1	2			
			幼児音楽 II	2	2	2			
		音楽 (中学校)	選択 必修	幼児音楽実技	1	3 ～	8		
				ピアノ実技	1	3 ～			
	ソルフェージュ			2	1 ～				
	音楽理論演習			2	1 ～				
	合唱		2	2 ～					
	合奏		2	2 ～					
	国語		選択 必修	初等国語科内容研究 I（書写を含む）	2	1 ～			2
				算数	算数科内容研究	2			
		生活		生活科内容研究 A	2	2 ～			
				生活科内容研究 B	2	2 ～			
	図画工作	必修	幼児の図画工作 A	1	1	1	4		
			幼児の図画工作 B	1	2	1			
			幼児の図画工作 C	1	2	1			
			幼児の図画工作 D	1	1	1			
	家庭 (中学校)	選択 必修	家庭経営論（家族関係学及び家庭経済学を含む）	2	1 ～				

(幼)

3 系科目

① 幼稚園教育・保育所保育専門系

区 分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教職に関する科目	必修	教育学概説	2	1	2 3	
教科に関する科目・保健（中・高）		小児保健Ⅰ	2	2		
養護に関する科目		救急処置実習	1	3		
		栄養学（食品学を含む）	2	2		
		社会福祉援助技術	2	3		
		養護原理	2	3		
		乳児保育	2	2		
		障害児教育概論	2	2		
		養護内容	1	3		
		保育実習（ⅠＡ）	2	2		
		保育実習（Ⅰ事前・事後指導）	1	2・3		
		保育実習（ⅠＢ）	2	3		
		保育実習Ⅱ	2	3		

② 幼稚園教育・小学校教育専門系

区 分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教育課程及び指導法に関する科目	選択必修	初等国語科授業研究（書写を含む）	2	2～	6 12 2 2	
		初等社会科授業研究	2	2～		
		算数科授業研究A	2	2～		
		算数科授業研究B	2	2～		
		初等理科授業研究A	1	3～		
		初等理科授業研究B	1	3～		
		生活科授業研究A	2	2～		
		生活科授業研究B	2	2～		
		初等家庭科授業研究A	2	2～		
		初等家庭科授業研究B	2	2～		
		初等音楽科授業研究	2	2～		
		図画工作科授業研究	2	2～		
		初等体育科授業研究	2	2～		
	道徳の指導法	必修	道徳教育論	2	3	2
	特別活動の指導法	必修	特別活動論	2	2	2
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	必修	生徒指導論Ⅰ（教育相談、進路指導を含む）	2	2	2	
教育実習	必修	教育実習Ⅲ（附属小学校実習）	2	4	2	
教科に関する科目	選択必修	初等社会科内容研究	2	2～	2	
		初等理科内容研究	2	2～		
		初等音楽科内容研究	2	2～		
		図画工作科内容研究	2	2～		
		初等体育科内容研究	2	2～		
		初等家庭科内容研究	2	2～		

Ⅲ 卒業研究

科目区分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
卒業研究	必修		6	4	6	※卒業研究の履修に当たっては、19頁を参照のこと。

養護教諭養成課程

養護教諭養成課程 卒業要件単位数								
教養教育科目	別表第8 卒業認定に必要な教養教育科目単位数の表により単位を修得すること。					31単位		
専門科目	学部科目	教職に関する科目	教職の意義等に関する科目			2単位	99単位	
			教育の基礎理論に関する科目	教育の理念, 歴史及び思想 心身の発達及び学習の過程 社会的, 制度的又は経営的事項	4単位 6単位 4単位	14単位		
			教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法 道徳の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術	2単位 2単位 2単位 4単位	10単位		
			生徒指導及び教育相談に関する科目			4単位		
			教職実践演習			2単位		
			教職に関する科目に準ずる科目			2単位		
	課程科目	養護に関する科目		40単位				
		教職に関する科目	養護実習		6単位			
			各教科の指導法（保健）		4単位			
	自由選択科目					9単位		
	卒業研究					6単位		
	卒業要件単位数合計						130単位	

（注）小学校教諭及び中学校教諭の普通免許状を取得する場合は、「介護等体験」が必要である。

I 学部科目

1 教職に関する科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件		備 考
教職の意義等に関する科目		必修	教職論	2	1	2		
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	必修	学校と教育の歴史	2	1	2	4	
		選択 必修	教育哲学	2	2～	2		
			日本教育史	2	2～			
			西洋教育史	2	2～			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	必修	学校教育心理学	2	1	2	6	
			発達障害教育概論	2	3	2		
		選択 必修	発達心理学A	2	1～	2		
			発達心理学B	2	1～			
			発達心理学C	2	1～			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	必修	教育の制度と社会	2	1	2	4	
		選択 必修	教育社会学	2	2～	2		
			教育法制論	2	2～			
			生涯学習社会論	2	2～			
			教育経営学	2	2～			
			学校教育実践学	2	2～			
			教職とマネジメント	2	3～			
		選択	人権・同和教育	2	1～	修得することが望ましい		
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	必修	カリキュラム論	2	2	2		
	道徳の指導法	必修	道徳教育論	2	3	2		
	特別活動の指導法	必修	特別活動論	2	2	2		
	教育の方法及び技術	必修	教育の方法と技術	2	2	2	4	
		選択 必修	現代教育方法学	2	2～	2		
			学習意欲向上の原理と方法	2	2～			
			教育評価・測定	2	2～			
情報メディアの授業活用	2		3～					
生徒指導及び教育相談に関する科目		必修	生徒指導論Ⅰ（教育相談、進路指導を含む）	2	2	2	4	
		選択 必修	教育相談論A	2	3～	2		
			生徒指導論ⅡA	2	3～			
教職実践演習		必修	教職実践演習（養護教諭）	2	4	2		
		選択	教職実践演習（中学校）	2	4			

2 教職に関する科目に準ずる科目

区 分Ⅰ	区 分Ⅱ	選必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
教職に関する科目 に準ずる科目	現代的課題	選択 必修	E S Dの理論と実践	2	2～	2	
			社会福祉	2	1～		
			児童福祉	2	2～		
			家族援助論	2	2～		
	体験的学習		フィールド・チャレンジA	1	1～		
			フィールド・チャレンジB	1	1～		

Ⅱ 課程科目

1 養護に関する科目

区 分	選 必	授 業 科 目 名	単位	履修 年次	卒業要件	備 考
衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む。）	必修	公衆衛生学・衛生学(予防医学を含む)	2	2	2	4 0
	選択 必修	疫学・衛生学	2	2～	2	
		予防医学	2	3～		
学校保健	必修	学校保健概論	2	2	2	
	選択 必修	学校保健管理	2	2～	2	
		性教育	2	3～		
養護概説	必修	養護概説	2	1	2	
		養護活動論Ⅰ	2	2	2	
	選択 必修	養護活動論Ⅱ	2	3～		
		保健指導論	2	2～		
健康相談活動の理論及び方法	必修	健康相談活動Ⅰ	2	3	2	
	選択 必修	健康相談活動Ⅱ	2	4		
栄養学（食品学を含む。）	必修	栄養学（食品学を含む）	2	1	2	
解剖学及び生理学	必修	人体の構造	2	1	2	
		人体の機能Ⅰ	2	1	2	
	選択 必修	人体の機能Ⅱ	2	2～		
		発育発達論	2	2～		
「微生物学，免疫学，薬理概論」	選択 必修	薬物と人間	2	3～	2	
		微生物学	2	3～		
		免疫学	2	1～		
精神保健	必修	精神保健	2	2	2	
看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	必修	小児保健Ⅰ	2	2	2	
		看護学Ⅰ	2	2	2	
		看護学Ⅱ（救急処置を含む）	2	2	2	
		臨床実習	2	3	2	
	選択 必修	内科学	2	3～	2	
		整形外科	2	2～		
		小児保健Ⅱ	2	3～		
		眼科学	2	2～		
		耳鼻咽喉科学	2	2～		
		皮膚科学	2	2～		
		歯科保健	2	3～		
		看護学Ⅲ	2	3～		
		救急処置	2	2～		
		救急処置実習	1	4		
障害児保健論	2	4				

(養護)

2 教職に関する科目（養護実習）

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
養護実習		必修	養護実習Ⅰ（観察・参加実習）	1	1・2	1	6
			養護実習Ⅱ（養護実習基礎研究）	1	2・3	1	
			養護実習Ⅲ（附属・公立学校実習）	1	3	3	
			教職実践インターンシップ	1	4	1	

3 教職に関する科目（各教科の指導法（保健））

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法（保健）	必修	中等保健科指導法A	2	3	2	4
			中等保健科指導法B	2	3	2	
		選択	中等保健科指導法開発	2	4		
			保健教材論	2	4		

4 教職に関する科目（教育実習）

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
教育実習		選択	教育実習Ⅱ（中学校教育実習基礎研究）	1	3・4		※保健の免許を取得する場合は、教育実習の単位を修得すること。
			教育実習Ⅲ（附属中学校実習）	4	4		

IV 自由選択科目

区 分 I	区 分 II	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
※自由選択科目には、選択科目の単位の他、卒業要件単位を超えて修得した選択必修科目の単位、及び他学部開講の専門教育科目の修得単位をあてることができる。（教養教育科目は、自由選択科目にあてることができない。）						9	

V 卒業研究

科目区分	選必	授 業 科 目 名	単位	履修年次	卒業要件	備 考
卒業研究	必修		6	4	6	※卒業研究の履修に当たっては、18頁を参照のこと。